

## 平成25年9月一般質問(25年9月3日)

### 1. 西尾市のまちづくりと諸問題について

- (1) 協働のまちづくりのために行政がやるべきこと、市民がやるべきことをどのように考えていますか。
- (2) 名鉄の存続問題についての市民意識をどのように捉えていますか。また、恒常的な利用者増の取り組みや、利用者増のための強化策はどのように考えていますか。
- (3) 愛知こどもの国は、西尾市のまちづくりにどのような存在と考えていますか。また、将来像はどのように考えていますか。
- (4) 幡豆地区の企業庁所有の山林は、西尾市のまちづくりにどのような存在と考えていますか。また、将来像はどのように考えていますか。
- (5) 「元気なまち西尾」実現のための大型施策を考えませんか。

### 2. 西尾市の目指すべき都市、観光都市について

- (1) 西尾市の目指すべき都市、観光都市としての位置づけはどのようなものですか。
- (2) 滞在型、回遊型、体験型の観光メニューの創出として、今後取り組んでいく事業計画はありますか。
- (3) 観光地として風光明媚な三ヶ根山をもっと活かす方策は考えませんか。
- (4) 「小京都・西尾」としてのまちづくりと観光をどのように考えていますか。

### 3. 行政改革を推進する職員と市民の取り組みについて

- (1) 行政改革を推進するための職員の意識改革はどのようにですか。
- (2) 地域主権時代に対応するための人材の資質、スキルを伸ばす方策はどのようにですか。
- (3) 行政改革を推進するための行政側と市民側の役割はどのようにですか。

---

○(渡辺信行) 新生西尾クラブの渡辺信行です。ただいまより一般質問を行います。

今年3月に、第7次総合計画が策定されました。ご承知のとおり、総合計画は市民と西尾の未来の姿を共有し、市民と力を合わせて目標に向かって進んでいくための指針であります。計画の性格としても市の最上位計画であり、道しるべとなるまちづくりの羅針盤とされています。西尾市と幡豆郡が合併し3年目になり、合併で協議した内容のふぐあいの調整もしながら、中核都市としての西尾市のまちづくりや西尾市の将来の望ましい都市像に向けて諸事業の実施など、重要な時期であります。

榎原市長は、1期目に念願の合併を達成され、今年の7月からの2期目は手腕の見せどころであります。所信表明でも、最大の責務は新西尾市の将来像と、新たな可能性をはっきりと示し、次のステップへ礎づくりを前進させることとされています。私たち市会議員も、合併後、初めてのオール西尾としての選挙に当選させていただき、その職責の重さを感じているところであります。総合計画の行動指針に「市民の参画と行政との協働」と示されていますが、私たち議員としても市民と市議会と執行機関が協働したまちづくりの実現に尽力し、市民の信託にこたえたいと思っております。

それでは議題1、西尾市のまちづくりと諸問題について質問をいたします。

総合計画の中に、「市民と行政が共に考え行動するまちづくり」という基本目標があります。市民の各種委員会への参加、政策策定の際のパブリックコメントの実施、情報共有のための市民

協働ガイドや市政懇談会など実施されていますが、まだまだ本当の市民協働によるまちづくりには至っていないと思います。市民の皆さん、自分たちのまちは自分たちがつくるという意識、意欲を持ってもらうことが大切であります。これからは行政がしてくれるのを待っているのではなく、まさに協働の時代であります。そうした中で最も重要なのは、行政がその地盤をつくることだと思います。市民がまちづくりに参画できるかどうかは、行政次第とも言えます。災害対策にしても、まちづくりすべてを市民全体で考え、安全で安心できるまちをつくっていかなければなりません。市長の所信表明にも「新・西尾市のまちづくりを担うのは、ほかのだれでもない西尾市民だ」とありましたが、そのとおりであります。まちの主役は、そこに暮らす市民であり、西尾市の恵まれた環境を生かし、だれもが住みたい、住んでよかったと思うことのできるまちのあり方を市民が考える。そして、まちづくりの実現のために事業者や行政が協力していく、そのように思っています。

総合計画には、各施策ごとに行政の役割、市民の役割などを明記してありますが、その役割を果たすため、果たす方向に持っていくため行政のやるべきこと、市民にやってもらうべきことは何かをお聞きします。

質問要旨 (1) 協働のまちづくりのために行政がやるべきこと、市民がやるべきことをどのように考えていますか。

---

○（答弁）協働のまちづくりのために行政がやるべきことですが、市民の社会貢献意識を大切に、さまざまな場面で市民がまちづくりに参画できる環境づくりと考えます。具体的には、市民協働ガイドなどを積極的に実施し、情報共有と情報公開に努めるとともに「市民活動センター・アクティビティにしお」において、市民活動の結びつけや人材育成などを図っていくことと考えております。

次に、市民がやるべきことですが、まちづくりの主役は市民であり、市民1人1人が「自分たちの住むまちは自分たちでつくる」という意識のもと、地域への参画や行政との協働を通して、自立して主体的な活動を展開していただくことが大切な役割と考えております。また、地域のコミュニティにおいても、自主的かつ主体的な地域活動を活発に行なうことが重要であると考えております。

---

○（渡辺信行）再質問をします。市民の皆さん、まちづくりに参画するには、自分のまちを見て、感じて、例えば最近、空き地がふえてきたとか、この前まで営業していた店が空き店舗になったとか、道路が狭いが救急車や消防車が通れるのかなど、自分のまちを観察することから始まります。そして、近所や町内会などで話し合い、さらに自分たちのまちにどのような計画や規制、制限があるかを調べながらまちを考える、そして協働のまちづくりができると思います。

質問ですが、市民協働によるまちづくりは市民の意識と意欲がなければできませんが、市民の認識はどのように考えていますか。

---

○（答弁）本市では、今年7月現在、30の団体がNPO法人として愛知県から認証を受けて、さまざまな活動を展開しており、さまざまな主体による市民活動が広がりを見せておりますが、一方では、家庭や地域コミュニティの機能低下、町内会の加入率の低下などの指摘もあり、市民全体としてみると必ずしも十分とは言えません。しかしながら、阪神淡路大震災や東日本大震災を経験し、本市においても各地域で地域間のつながりやコミュニティにおけるきずなの大切さが改めて見直される中、今後「自分たちの住むまちは自分たちでつくる」という意識を、さらに高めていただけるものと期待しております。

---

○（渡辺信行）再質問します。地域コミュニティの役割は非常に大事だと思います。言葉としてよく出ます自助、共助、公助の考えに基づき、市民も行政と協働しながら暮らしやすさの向上を目指す活動をしていただければと思います。

これまでのまちづくりは行政主導、住民参加。これからのまちづくりは住民主体、行政参加、住民と行政の協働と考えます。

質問ですが、市民と行政がともに考え行動するまちづくりの推進のため、市民に対してどのような取り組みを考えていますか。また、市民が多く参画する方策はどのようなものと考えていますか。

---

○（答弁）まちづくりの主役は市民であり、市民1人1人が地域への参画や行政との協働を通して自立して主体的に活動し、さまざまな場面で力を発揮できるよう地域の取り組みを支援してまいります。

市民が、まちづくりの担い手として活動する最も身近な機会には、地域コミュニティへの参画・参加があります。地域コミュニティの支援としましては、今年度、県事業を活用して校区コミュニティ推進協議会を対象に、これからの地域コミュニティのあり方をテーマとする研修会を予定しております。市民の皆様にはこのような機会を通じ、まちづくりに対する関心を高めていただき、市民と協働のまちづくりに努めてまいります。

---

○（渡辺信行）再質問します。地区まちづくり協議会をつくる考えについては、さきの中村議員の質問での答弁で、つくる考えはないということでした。

それでは、近年、各市で制定されるようになってきた、まちづくりの指針を示すまちづくり条例の制定の考えはどのようにですか。

---

○（答弁）合併後、3年目となった新しい西尾市のまちづくりの基本理念であるまちづくり条例の制定については、市民と行政による協働のまちづくりには重要な視点であると考えます。

まちづくり条例は、市のまちづくりを定める重要規範に位置づける必要があり、条例制定に向けて調査研究を進めてまいりたいと考えております。

---

○(渡辺信行) 次に、幡豆地区の諸問題についてお聞きします。

名鉄電車の存続問題、愛知こどもの国の方、企業庁所有の山林の活用問題など、解決しにくい懸案事項があります。行政として、それなりに対策を講じていることは承知していますが、抜本的な問題を解決しない限り、先は見えてこないと思います。名鉄電車で言えば乗客をふやそうという呼びかけなど、利用促進のための取り組みや、それら対策の一つ一つの積み重ねが大切なこともわかりますが、恒常にふえる対策をしない限り、難しい問題と考えます。車社会で成り立っている当地域、交通網や利便性などを考えると車に乗るなというのは酷な話であります。乗客をふやすというより、乗客数がふえる対策を考えなければ解決できないと思います。

愛知こどもの国については思い切った改善をしないと、現状維持か縮小が余儀なくされる感じがします。施設も老朽化しておりますので、時代に合った施設への改善や児童遊園施設という枠にこだわった既成からの脱却などが必要と考えます。例えば、児童遊園施設ということで、芝生広場でコンサート1つできないと聞いております。これら愛知県への思い切った提言、愛知県の積極的な改革が必要と考えます。

また、企業庁所有の山林は放置状態であります。名鉄電車は名鉄との絡み、愛知こどもの国と企業庁所有の山林は愛知県との絡みがあって、西尾市の思いだけでは進められないことはわかりますが、何とかしないと先が見えてきません。8月4日に開催されました西尾市都市計画マスターplan地区別意見交換会においても、これらの問題について意見が出されました。市の説明では、策定背景として少子高齢化の進行など、現実を考慮した内容でしたが、市民からは「人口が減少していくという見解ではなく、人口をふやしていく考え方で計画していくことや夢の持てる計画にすべき」という意見が出されました。現実的な計画も必要ではありますが、夢や目標に向かって将来の都市像を考えることも大切であると思います。

また、8月27日の市政懇談会においても、これらについて意見や質問が出されました。何事も、できないかもしれない、難しいと思って取り組むのではなく、何とかしたい、何とかしなければと思って取り組むことが重要であると思います。

そこで、西尾市の考え方と取り組みについての意気込みをお聞きします。

名鉄の存続問題は、関係機関や市民団体等と力を合わせて利用促進、沿線の活性化を推進するとされていますが、何よりも市民の意識が重要であると思います。しかし現実には、まだ必要性を感じている市民が少ないというか、廃止に対する危機感を感じていない気がします。また、6月議会の一般質問で、存続を確かなものにするため、利用者増の取り組みを強化すると答弁されました。

質問要旨(2)名鉄の存続問題についての市民意識をどのように捉えていますか。また、恒常的な利用者増の取り組みや利用者増のための強化策はどのように考えていますか。

---

○(答弁) 議員のおっしゃるとおり、「乗って残そう」とする市民の意識はとても重要であり、過度に車に依存した社会において市民の鉄道存続に対する危機意識は、行政が思うほど高くないうふうに思います。特に、沿線以外の方の問題意識は薄いように思います。利用者増のための強化策としては、西尾市と蒲郡市が組織しております名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会において、今年8月に策定しました名鉄西尾・蒲郡線活性化実施計画の中で、ハイキングやイベ

ント企画などによる利用促進策を初め、職員によるエコ通勤の推進や地域公共交通計画を策定することで鉄道、バス等との連携強化を図ってまいります。

また、恒常的な利用者増の取り組みも重要であると思いますので、今後も調査研究をしてまいりたいと思います。

---

○(渡辺信行) 再質問をします。地域公共交通機関の廃止問題や再生については、西尾市だけでなく日本各地域の課題であります。鉄道に限らず公共交通は、医療、福祉、教育、環境など自治体すべての施策の土台であり、土台となる公共交通がちぐはぐですと他分野を幾ら整備しても不十分となります。しっかりと整備されれば地域全体の暮らしやすさがアップします。公共交通、言いかえれば生活交通であり、地方自治体にとって必要不可欠な行政サービスであります。また、人にも環境にも優しい交通体系づくりが必要でありますし、高齢化の進展による移動手段や地域崩壊などの問題も考慮しなければなりません。そして、住民の視点に立った公共交通のあり方を考えるべきであります。

質問ですが、住民の視点に立った公共交通のあり方はどのように考えていますか。

---

○(答弁) 交通弱者と言われております学生では、高校、大学などへの進学並びに進路にも大きく影響を受けるものと考えております。あわせて、お年寄りの方にとって毎日の買い物や病院などへ通院する移動手段の確保も大変重要であり、なくてはならない公共交通の1つであると考えております。しかし、利用促進のための各種サービスを手厚くするだけでは公共交通の維持はできませんので、住民が何を求めているのかよく調査研究して、公正かつ公平な公共交通にしたいというふうに考えております。

---

○(渡辺信行) 次に、質問要旨(3)愛知こどもの国は、西尾市のまちづくりにどのような存在と考えていますか。また、将来像はどのように考えていますか。

---

○(答弁) 県内最大の児童遊園施設であります愛知こどもの国は、豊かな地域資源を生かしてまちづくりを進めようとしております本市にとりましては、大変貴重な観光資源であります。こどもの国の将来像でございますが、今後も県などとも連携して活性化に努めることで、数ある市内の誘客施設の中核を担い、魅力ある地域づくりの拠点となり得る施設であると考えております。

---

○(渡辺信行) 再質問します。新春インタビュー、施政方針においても施設の活性化とともに来場者増に努めている、今後も努めると答えてみえますし、愛知こどもの国・地域協働事業実行委員会においても協議されていることと思います。6月議会では、自然豊かな愛知こどもの国の人を生かせるよう振興に努めるとされました。また、市政懇談会においても、フロンティア西尾、県などと連携・協働して利用促進・誘客を図り、施設の活性化に努めるとされましたし、

絶対になくさないと言わされました。これらも踏まえて、お聞きします。

市が主催する各種行事を開催することも必要ですが、県の施設だからという見地ではなく、西尾市に存在する施設として、先ほどの答弁の実現のため、西尾市として今後どうしたいと考えていますか。

---

○(答弁) 議員がおっしゃいますとおり、愛知こどもの国は県の施設ではありますが、本市のみならず、三河地域全体にとりましても緑豊かな大自然を満喫できる貴重な地域資源でございます。

今後は、地域活性化のための中核施設として、施設管理者や自治体の枠を超えて市内の他の観光誘客施設や周辺自治体とも相互連携を図ってまいりたいと考えております。

---

○(渡辺信行) 次に、質問要旨(4)幡豆地区の企業庁所有の山林は、西尾市のまちづくりにどのような存在と考えていますか。また、将来像はどのように考えていますか。

---

○(答弁) 幡豆地区の愛知県所有地は、産業競争力の強化や経済の発展、雇用の場の確保、そして人と自然の触れ合いの場の創設など、多種多様な可能性を秘めておりまので、地域の発展に大きく貢献するものと期待を寄せております。

所有者である愛知県には、可能な限り早期に開発していただけることを要望しております。

---

○(渡辺信行) 再質問します。利活用策については、愛知県企業庁と共同で検討中であると思います。

質問ですが、検討内容はどのようなものですか。また、前進していますか。

---

○(答弁) 現在、企業庁の職員と西尾市の職員とで幡豆地区県有地の勉強会を行っております。平成24年に設置以来、これまでに4回会議を開催しております、現状の把握、全体開発、部分開発、採石業者へのヒアリング、事業の採算性などについての検討を行ってまいりました。単独事業としての開発は多大な費用が必要となりますので、土砂の有効利用が可能な大型事業とあわせて実施をすることが必要と考えております。引き続き、県への要望を継続してまいります。以上でございます。

---

○(渡辺信行) 再質問します。有効活用と土砂利用の必要な大型事業の実施とあわせて県に要望していくという答弁は、施政方針の際も聞いておりますし、市政懇談会の際にも早期に利活用していただくよう粘り強く要望活動していくと聞いております。しかし、進展しているようには思えませんので、正直申しまして、このまま何年も放置状態が続く感じがしております。開発を諦めることはありませんが、近年中に空港の埋め立てのような事業は期待できませんし、あつ

たとしてもここからの土砂採取の可能性は少ないと思います。

また、開発するには地盤、道路、立地条件の問題など課題もたくさんあります。現実問題として、期待論だけで非常に難しい案件と考えています。ともかく、一番の問題は愛知県の取り組み姿勢あります。できるかできないかはわかりませんが、できる可能性のあるものは、できるために努力するのは当然のことです。

質問ですが、愛知県の考え方、将来構想はどのように考えていますか。また、西尾市内の土地として西尾市の努力目標はどのようなものですか。

---

○（答弁）愛知県の県有地利活用に対する考え方ですが、法規制や事業の採算性などがネックとなりまして、具体的な方針が見つかっていない状況でございます。県では、公共的・公益的な用途、あるいは民間での利活用も含めまして幅広い視点から検討してまいりたいと、このようにしております。西尾市といたしましては、愛知県に対し、県有地利活用の全体計画をつくり、それに基づいてできることから進めてほしいとお願いをしておりまして、実現に向けて努力をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

---

○（渡辺信行）この議題、最後の質問をします。

市長の看板を町なかで目にします。「元気なまち西尾」いい言葉だと思います。市民にとりましても、まちにとりましても元気でなければなりません。子育てしやすい環境の整備とか就労の場の創出とか、安心して暮らせる地域ケア体制の充実とか、一つ一つの積み重ねであると思いますが、これとは別にデンソーを西尾に誘致したような大型プロジェクトで、西尾市が財政面、雇用面、人口増加など、元気になる方法もあると思います。施政方針の答弁で、4つの主な施策の中に「工場、店舗が進出するまち」という言葉がありました。

質問要旨（5）「元気なまち西尾」実現のための大型施策を考えませんか。

---

○（答弁）誘致活動におきましては、市長を先頭に東京や大阪などで開催される展示会でのPR活動、あるいは地元企業への訪問を積極的に行ってまいりました。その結果といたしまして、工場の建設が一時ストップしておりました南中根町のアイシン精機株式会社が、新工場の建設を計画していただける運びとなりました。また、「西尾の抹茶」ブランド確立に大きく貢献をしている株式会社あいやでは、米津町地内に新工場の建設を進めていただいております。

商業系に目を向けてみると、現在、西尾駅東のファミリータウン「ミカ」跡地では、ユニー株式会社が新店舗を建設中でありますし、寄住町地内では食品・家電関係の企業が立地を進めております。

今後も、大小さまざまな開発を計画し、製造系企業の誘致に取り組んでいくとともに、大規模集客施設の誘致にも力を入れていきたいと、このように考えております。

以上でございます。

---

○(渡辺信行) 以上で、議題1の質問を終わります。

次に議題2、西尾市の目指すべき都市、観光都市について質問します。

さきの市長選挙と市議選のある新聞のアンケートで、「西尾市の目指すべき都市は何か」という質問がありました。榎原市長は、「すべてを備えた都市でありたいと願っているが、力点は観光都市だと考えている」と答えています。また、市議選の候補者も40人中、10人が同じような答えをしてみました。

西尾市は、多くの自然や豊富な観光資源に恵まれていると思います。現在も、観光メニューの創出や特産品の開発、西尾の魅力のPRなどを行っていることはわかります。観光客の誘客やまちの活性化にはつながっていますが、西尾市が目指すのは観光都市なのか、それとも総合計画の柱の1つの中のまちづくりが観光都市へつながるものなのか、確認も含めてお聞きします。

質問要旨 (1) 西尾市の目指すべき都市、観光都市としての位置づけはどのようなものですか。

---

○ (答弁) 第7次西尾市総合計画では、将来の都市像を「自然と文化と人々がとけあい 心豊かに暮らせるまち」と定めております。その実現に向けての産業振興の基本目標を「活力と魅力あふれる産業づくり」として、その計画に「観光交流圏づくり」や「特産品開発と地域ブランド」などの項目が挙げられております。

本市は商工業、農林水産業など、バランスのよい産業構造を持った都市であります。観光事業も、その1つに位置づけております。観光は、一次産業から三次産業までの幅広い裾野を持ち、地域経済全体への波及効果が期待できますので、そういう意味から観光都市としても振興を図ってまいりたいというふうに考えております。

---

○(渡辺信行) 質問要旨 (2) 滞在型、回遊型、体験型の観光メニューの創出として、今後、取り組んでいく事業計画はありますか。

---

○ (答弁) 豊かになった観光資源を活用して、観光客に市内での滞在時間を長くし、多額の消費行動をしていただくことが重要であるというふうに考えております。観光メニューにつきましては、現在、観光基本計画のアクションプランにおいて検討することにしておりまして、このプランの策定に参加する観光関係の若手経営者らの意見を反映して、民間活力を引き出せる観光メニューを創出してまいりたいと考えております。

なお、観光協会では名鉄とタイアップした「抹茶の薫る三河の小京都」キャンペーンを継続するのを初め、近隣市町と連携した着地型・体験型の観光事業を実施し、交流人口をふやしていきたいと考えております。

---

○(渡辺信行) 再質問します。催しの例を挙げますと、西尾祇園祭、一色の大提灯、ハワイアンフェスティバル。観光地で言いますと、佐久島、吉良温泉、三ヶ根山などがあります。イベント

は、毎年同じ内容では観光客はふえないと思いますし、新たな観光客の発掘とともにリピーターをふやすことが重要であると思います。

質問ですが、イベントや観光地の活性化のための工夫は何か考えていますか。

---

○（答弁） 現在、マスコミや情報誌への情報提供、ホームページやフリーペーパー「るるぶ西尾」によるPR、県内外で開催される観光物産展への参加などを行い、新たな観光客の発掘に努めています。現在、観光客のニーズは、名所・旧跡を回る観光から着地型・体験型観光へと変わってきております。このため、イベント実施団体におきましても、ハワイアンフェスティバルでは一般の見学客がダンスに参加したり、ハワイアン体験ツアーを企画したりする工夫を実施しております。また、観光事業者等も抹茶の石臼びきやみそづくり、塩づくりなどの体験型メニューを企画し、積極的にPRするようになってまいりました。

今後も、観光協会や関係事業者と連携しまして、着地型・体験型観光をさらに充実とともに、観光地としておもてなしをするという気持ちを高める取り組みも実施してまいりたいというふうに考えております。

---

○（渡辺信行） 次の質問ですが、幡豆地区には愛知こどもの国、三ヶ根山、前島など観光資源があり、西尾市観光の東の玄関口と位置づけられています。前島は、潮干狩り時期には多くの方がみえますし、三ヶ根山は、アジサイ時期やフェスティバル開催時期にはにぎわいがあります。三ヶ根山からの眺めは本当にすばらしいものだと思っています。しかし、休憩施設や子どもが楽しめる施設もありません。

質問要旨（3）観光地として風光明媚な三ヶ根山を、もっと生かす方策は考えませんか。

---

○（答弁） 三ヶ根山は、アジサイの咲く6月には多くの観光客が訪れます。この時期の観光客をさらにふやすため、今年度、西尾信用金庫の協力で旧山頂展望台付近にアジサイの植樹をいたしました。また、昨年度から幡豆小、東幡豆小の児童に、山頂やスカイライン沿いでアジサイの植栽をしていただき、地元の観光地に愛着を持ってもらう取り組みを実施しております。

アジサイ時期以外では、イベントを実施して集客を図るとともに観光協会もあらゆるツールを活用して、風光明媚な三ヶ根山のPRに努めていきたいというふうに考えております。

---

○（渡辺信行） 再質問します。休憩施設やレジャー施設の整備など、民間活力はどのように考えていますか。

---

○（答弁） 三ヶ根山の眺望のすばらしさから、民間活力による施設整備などが行われれば活性化する可能性がある観光地であると期待しておりますが、今のところ施設整備などの計画については伺っておりません。

今後、三ヶ根山が発展するよう施設整備などの計画があれば、ともに調査研究をしてまいりたいというふうに考えております。

---

○(渡辺信行) 次に、「小京都・西尾」について質問します。

全国に観光宣伝などを目的とした自称・他称の「小京都」は数多くありますが、西尾市のように全国京都会議に加盟している団体は49あります。小京都の加盟基準は、古い町並みや風情が京都に似ていること、京都をまねたまちづくりがされていること、伝統的な産業・芸能があることと定められています。西尾市が加盟した理由や、合併により吉良公の歴史などが加わったことは承知しています。そして、来月には西尾市において全国京都会議が開催され、さらなる観光のPRに取り組んでいることはわかりますが、小京都にふさわしいまちづくりができるのかも含めて質問します。

質問要旨(4)「小京都・西尾」としてのまちづくりと観光をどのように考えていますか。

---

○(答弁)「小京都・西尾」は、観光イメージ戦略の1つとして位置づけ、キャンペーンなどで活用しております。

議員がおっしゃったように全国京都会議には、京都に似た景観、歴史的なつながり、伝統的産業のうち、1つ以上の項目を有することが加盟条件となっております。本市は、かぎ万灯や板倉勝重公の縁や茶産業などがあることにより加盟が承認されたもので、合併により吉良公の縁で京都とのかかわりがさらに深まったことは、観光面で大変重要なことであるというふうに考えております。

---

○(渡辺信行) 再質問をします。三河の小京都としての市民の意識を、どのように捉えていますか。また、小京都というと、一般的には古い町並みや京都に似た風情が思い浮かびますが、そのような小京都を意識したまちづくりはどのように考えていますか。

---

○(答弁)抹茶の産地や歴史公園周辺のたたずまいなどから、「小京都・西尾」を意識されている方も多いと思います。しかし、一般の方が「小京都」としてイメージされる町並みの保存・整備などは、必ずしもなされているとは言えない状況であります。

一方、京都とかかわりのある長円寺や華蔵寺などの名刹では、今も往時の風情が残っておりますので、観光協会や関係団体と連携して「小京都・西尾」をイメージできるまちづくりに努めてまいりたいというふうに考えております。

---

○(渡辺信行) 次に議題3、行政改革を推進する職員と市民の取り組みについて質問します。

社会情勢の変化、地方分権化の中で多様化する住民ニーズにこたえ、自治体としての役割を果たしていくためには行財政改革の推進とともに、これからの時代には人材の育成が大きな課題であります。行財政改革は、どこの市町村も取り組んでいるところであり、改革できることをす

るのは当然のことあります。西尾市も従来から取り組んでいますが、最優先といいますか、さらに進めなければいけない、さらに進めることができるのが改革を行う職員の意識改革であると思います。まちづくりにしても、市民サービスにしても、行政をつかさどるのは人、つまり職員であります。職員1人1人の意識改革により、すべての行政事務事業が変わってきますし、市役所の資質向上ができるものと思います。私も、数ヶ月前まで職員でありましたので、職員の思いなどわかっておりますが、より一層レベルアップした職員、よい職場になることを望んでいるものであります。

さて、改革には3つの壁があると言われています。1つ目は物理的な壁、2つ目は制度の壁、3つ目は心の壁です。その中で、一番難しいのは心の壁を破ることだと言われています。職員の意識を変えることの難しさ、そして職員の意識改革が、さらなる行政改革の鍵を握っていると言えます。

質問要旨 (1) 行政改革を推進するための職員の意識改革はどのようにですか。

---

○ (答弁) 今年度、見直しをいたしました西尾市職員の人材育成基本方針では、目指す職員像を「信頼を築き 力を合わせ挑戦する プロフェッショナル職員」としております。行政事務における徹底的な無駄の排除という観点から、職員の意識改革を継続的に実施し、改善意識の定着化を今後も図ってまいります。

以上です。

---

○(渡辺信行) 再質問ですが、職員の意識改革の成果はどのようにですか。また、今後の方策はどのようにですか。

---

○ (答弁) より効果的で効率的な行政運営と、一層の市民サービスの向上を図るために、全庁的な取り組みといたしまして市政経営品質改善運動を展開しております。そのうち市政経営品質会議では、各部の未解決の懸案事項に対し、市民サービスの直接提供者である現場職員の意見を取り入れ、市民本位の政策の実現や一層の市民サービスの向上を目的に、課題の発見、現状の分析、改善策について議論し、提言を行い、仕事に活用しております。

今後も、市政経営品質会議の開催のほか、改善板による日常的な改善や他部署との情報共有を目的とする経営品質リーダー研修会の開催もあわせて実施をいたしまして、さらなる職員の資質向上を図ってまいります。

以上です。

---

○(渡辺信行) 次に、人材育成の視点から質問します。

日本は今、人口減少や少子高齢化など、社会構造の著しい変化、経済のグローバル化や情報通信の高度化、環境、エネルギーなどの諸問題に直面しています。これらの課題に適切に対応し、持続的な発展を続けるためには地域主権改革が必要と考えています。地域主権時代と

言われる今、複雑高度化した課題、多様化した住民ニーズなどにいかに対応できるか、創意工夫を凝らして政策形成できるか、豊かで柔軟な発想ができるかが問われています。地域で生起する問題をみずから考え、解決する職員、考え方調査し、行動する職員が求められるものと思います。従来型の、いわゆる事務屋では、これから地域主権時代の自治体を支えていくことはできないと思います。激動期を乗り切るために、職員の能力をさらに向上させる必要があります。

質問要旨(2) 地域主権時代に対応するための人材の資質、スキルを伸ばす方策はどのようにですか。

---

○(答弁) 地域主権時代を担っていくためには、自己決定・自己責任の原則のもと、新たな分野を担い、西尾市の特性を生かした新しい価値を創造していく政策形成能力を備えた人材の育成が必要であると考えております。市に対しまして要望やご相談があれば、職員はまず現場に足を運び、市民の生の声や空気を感じ取り、仕事に生かせるよう「現場第一主義」を徹底してまいりたいと考えております。

人材の資質、スキルを効果的・効率的に伸ばすためには、人材育成と人事管理との連携が重要でございます。人材育成を目的とした評定制度を確立することにより、能力、実績、適性を重視した、いわゆる年功にとらわれない昇任管理を行いまして、男女を問わず適材適所への積極的な登用を図ることが重要であると考えております。

以上です。

---

○(渡辺信行) 再質問します。能力開発、人材育成の基本は自学、みずから学ぶ自己学習であります。職員自身に伸びる気持ちがなければ決して伸びません。その自学の基本、出発点は気づきであります。自分は何が足りないのか、何がすぐれているのかという気づきが必要であります。人事管理の諸制度が本人の自学を促す刺激になる場合もありますし、異動したときに新しい仕事を覚える中で自学を促すこともあります。困難な仕事に直面したときは典型的であります。また、昇任したときに自覚を持って自学に取り組む職員も多くいることと思います。私たち議員にとりましても、議案審議や一般質問のときと同じであります。

再質問ですが、人材育成のツールはどのように考えていますか。

---

○(答弁) 人材育成には、職員の主体的な努力と挑戦意欲が不可欠であります。行政のプロフェッショナルとしての自覚を持つとともに、みずからの意思で学ぶ職員を育成するため、仕事への意識向上や職員の能力開発・意識改革のきっかけとなるような研修プログラムを、今後も引き続き実施をしてまいります。

以上でございます。

---

○(渡辺信行) 行政改革ということで、これまで人材、職員について質問をしてきました。最後に、行政運営の視点からの考え方について質問をします。

少子高齢化など社会環境の変化に伴い、議題1では協働のまちづくりを捉えましたが、言葉を変えますと自治としても協働でなければなりません。そのためには、市民目線に立った行政運営をする必要があります。さらには、行政側だけではなく、市民側にも意識改革は必要であると思います。

質問要旨 (3) 行政改革を推進するための行政側と市民側の役割はどのようにですか。

---

○ (答弁) 行政改革を推進する上での行政側の役割としましては、常に改革意識を持ち、市民サービスが低下しないよう市民目線での業務改善に取り組むことであり、一方、市民側の役割としましては、市政に関心を持ち、市全体の利益や発展につながるご意見やご提案を出していただくことであると考えております。

行政改革を推進するためには、議員がおっしゃいますように行政、市民ともに意識改革が必要であります。その上で、公開事業診断や市民協働ガイドなどを通じて行政と市民がパートナーとなり、心を1つにして取り組むことが重要であると、こういった思いでございます。

---

○(渡辺信行) 行政と市民、そして議会の協働により、よりよいまちづくりができるることを願って一般質問を終わります。ありがとうございました。

---